

時間を捕らえる

リック・コウリア（ソルトレイクアートセンター館長）

角永和夫は、慣れ親しんだものを偽るのではなく、注意を喚起し、固有の資質に価値を与えるために、一貫して共通の素材を選択します。次に、彼は最も単純な操作を系統的に識別し、錬金術師のように、材料の自然な順序を並べ替えて、それらが新しい重要性和意味を持つようにします。このアプローチにより、時間はツールとしても、各作品の重要な要素としても、彼の最も重要な媒体になります。彼は特に予測不可能な環境の影響を受けやすい素材に取り組んでおり、喜んでチャンスを認めています。たとえば、彼のガラス作品に見られる欠陥や欠陥は、環境にチャンスと脆弱性を具現化したものです。

和夫は、70年代半ばに作られた彼の最も初期の彫刻から、おそらく一部の視聴者にとってはありふれた、すぐに入手できる素材を選択しました。彼は、木材、紙、竹、絹などのよく知られた材料を利用しています。これは、彼の日常環境と聴衆の環境に共通する材料です。彼の選択は明確でシンプルでした—杉または松の木、手作りの和紙、天然の竹、そして絶妙な蚕。そうすることで、完成した作品のシンプルさを維持し、制作プロセスを明確にし、最終的には作品が「日本人」に見えることを防ぎます。80年代後半に、彼はコラボレーションする新しい素材としてガラス、シンプルな透明窓ガラスを選びました。興味深いことに、彼がこれまでに選択したすべての材料の中で、ガラスは彼が利用した唯一の無機物質です。

時間はカズオと彼の作品の永続的な特徴です。結果を期待することなく、彼は時間を与えて、選択された材料の固有の制限を調査および認識し、適切なプロセスを選択し、彼自身の知識と忍耐の程度を決定します。彼にとって、「芸術」を構成するのは、おそらく必要な研究を行う時間、実験する時間、間違いをする時間、助言を求め、情報を調べる時間です。作品の重要な要素としての時間の認識は、彼が快適で、安心して、それぞれの素材を直感的にすることを可能にします。時間はまた、作品、自分自身、そして場合によっては閲覧者の成熟を可能にします。これらの作品は、

作品に埋め込まれた時間の証拠を評価するために、視聴者側で実際に時間を費やす必要があります。

他の材料と同様に、ガラスで簡単に見つけるのに時間がかかりました。ほぼ15年間、カズオはガラスについて考え、研究し、取り組んできました。90年代半ばまで、数回の試みを経て、彼は自分の快適なデザインの手法で作品を制作することができました。このプロセスは、忍耐と時間を必要とします。予熱された窯の上10フィートにある炉から溶融ガラスの連続したストリングを注ぐのに48時間かかります。ガラスは、窯の上部にある12インチの開口部を通して、内側の鋼板に通されます。そこでは、コンピューター制御の閉じた環境では、液体ガラスが約1,500ポンドランダムに蓄積し、120日間室温までゆっくりと冷却されてから取り除かれます。和夫が使用する他の材料よりも、ガラスには固有の特性があり、あまり制御できません。しかし、彼が選んだ材料と同様に、環境は完成したガラス作品の外観に大きく貢献します。溶けた窓ガラスは、相対湿度、周囲温度、空気中の汚染物質が日ごとに変化するスタジオ空気的环境を通じて、炉からキルンまで液体スレッドで流れます。各緑の半透明のマウンドを綿密に調べると、この劇的な活動のランダムな性質が明らかになります。これには、注ぐ長さにわたってガラス内に取り込まれた不安定な空気によって引き起こされる不完全性や気泡が含まれます。一生に渡って捕らえられた作品のひとつにある大きな気泡は、マルセルデュシャン、Air de Paris（パリ航空の50 cc）の重要な作品の精神を彷彿とさせます。デュシャンと角永のそれぞれにとって、この「捕獲の出来事」は、私たちが見ることはできず想像することだけに興味をそそります。

この展覧会のために組み立てられたガラス作品は、一般的な素材、シンプルなプロセス、および予測不可能な環境とのアーティストの成功したコラボレーションを確認して、視聴者に提示します。彼はこれらの3つの要素の間、および制御と謎の間の均衡を達成しました。それは時間の限界を広げます。これらの作品は、目に見える激しい波紋とともに、特定の48時間の微妙な出来事が刻印されたカレンダーです。ガラスの不浸透性の特性により、これらのイベントは、最も長く、永遠に、安全に、隠されます。